



# 挑戦

## 和歌山箕島球友会

軌跡・下

和歌山箕島球友会は4

度目の日本選手権出場を勝ち取るため、全国クラブ野球選手権大会2日目の先月5日、西武プリンスドーム(埼玉県所沢市)で1回戦に臨んだ。都市対抗野球大会近畿地区2次予選で日本生命(大阪市)に惜敗後、チームの合言葉は「打倒、ニッセイ」。だが、京セラドーム大阪(大阪市)への道のりは厳しい戦いの連続となった。

1回戦は所沢グリーンベースボールクラブ(関東地区代表)と対戦。この大会で箕島球友会は過去2回優勝しており、浦川拓人主将(26)は「挑戦者として向かってくる相手に対し、硬さがあった」と振り返った。1-3とリードされたまま終盤を迎え、八、九回の得点で何とか追いついた。延長十回タイブレークで平井徹選手(24)が中前適時打を放ち、サヨナラ勝ちし

## 試合ごとにたくましさ

### ◆全日本クラブ選手権(9月)の成績◆

※バッテリー、長打は和歌山箕島球友会のみ。○は勝ち投手。

- ▽1回戦(5日) 4-3 所沢グリーンベースボールクラブ(延長十回タイブレーク) 桐原、寺岡一水田 △二塁打 平井、穴田
- ▽準々決勝(6日) 1-0 全足利クラブ ○寺岡一水田
- ▽準決勝(7日) 4-3 千葉熱血MAKING 桐原、○北面一水田 △二塁打 水田
- ▽決勝(同日) 7-2 茨城ゴールデンゴース ○寺岡一水田 △二塁打 平井



優勝し抱き合っている和歌山箕島球友会の選手たち。埼玉県所沢市の西武プリンスドームで9月7日、猪飼健史撮影

た。

続く準々決勝の全足利クラブ(同)戦は息が詰まる投手戦に。七回に山下龍二選手(26)の犠飛で挙げた1点を寺岡大輝投手(22)が1-7球の力投で守り切った。

若手、中堅の頑張りで進んだ準決勝では、ベテランが奮起した。千葉熱血MAKING(同)に1-3の2点ビハインドで迎えた八回2死一、二塁、野手最年長の水田信合った。

一郎選手(27)が右中間に同点二塁打。「後輩を京セラドームに連れて行ってやりたかった」。チームは九回に今大会2度目のサヨナラ勝ちを収め、ダブルヘッダーでの決勝に進んだ。

決勝の相手は昨年の覇者・茨城ゴールデンゴース。五回を終えて0-2と重苦しい空気が流れたが、六回2死一、二塁で浦川主将からの3連打で3点を挙げて逆転。試合の流れを引き寄せる

若手が踏ん張って接戦をものにし、負けじとベテランも粘り強いプレーを見せて勝負どころで仕事をした。原井和也ヘッドコーチは「負ける雰囲気は一切なかった」と胸を張った。

昼間働く選手たちの練習は、平日は夕方からしかできない。拠点の有田市のマッペン有田球場はナイター設備がなく、日は日に日に早まる。企

業チームに比べ練習環境面では不利かもしれないが、西川忠宏監督(54)は「普段以上の力を引き出すのが私の仕事」と自信をのぞかせる。

チームは31日、1回戦でNTT東日本(東京)とぶつかる。チームの歴史に日本選手権での1勝を書き加えることができるか。浦川主将は「日本生命と当たるまでは負けろわけにはいかない」と力強く語った。

# 日本選手権で1勝を